序

神奈川大学日本常民文化研究所　大山崎調査プロジェクト
代表　中島　三千男

神奈川大学日本常民文化研究所調査資料目録『疋田家文書目録』をお届けします。

神奈川大学と大山崎地域との関わりは、後に大山崎調査プロジェクトの一員となる中島三千男と石井日出男が一九七八年から一九八三年にかけて大山崎町史の編纂（脇田修編纂委員長）に個人的に携わった事を嚆矢としますが（『大山崎町史　史料編』一九八一年、『大山崎町史　本文編』一九八三年）、本格的に関わり始めたのは一九八五年から一九八七年にかけて行われた、故神奈川大学経済学部教授丹羽邦男氏を研究代表者とする文部省科学研究費補助金の調査（「明治政府の社寺支配過程の総合的研究」）からです。従ってかれこれ二十年の歴史を持つことになります。

この、大山崎地域の研究が神奈川大学日本常民文化研究所の調査活動のプロジェクトとして位置づけられ活動を開始したのは一九九五年からです。本目録刊行の直接的な出発点はここにあります。

すなわち大山崎地域研究を日本常民文化研究所の一プロジェクトとして位置づけるにあたり、私たちは一つの決断をいたしました。それは、私たちのそれまでの調査研究を含めて、これまでの大山崎地域の調査研究がそれぞれの研究課題に関係ある史料を探索し収集するという、いわば「抜き取り」調査であったのを改め、「悉皆調査」を行い、さらにその成果を広く一般に公開しようという事でした。そのことにより、私たちだけではなく多くの研究者がこの地域の研究に関わる事によって、初めて、この地域の総合的な研究が可能となると考えたからです。また、それだけではなく「悉皆調査」を行う事によって、この地域に膨大に存在する中世から近現代にかけての史料の、所蔵者による伝世を確実なものにする事が出来ると考えたからです。

もちろん、こうした事が可能となるには第一に、長年にわたる地元の関係者のご理解・ご支援がなければなりません。大山崎町、大山崎町教育委員会、大山崎町歴史資料館をはじめ各文書所蔵者の方々には長年にわたって本当にお世話になりました。とくに、本『疋田家文書目録』の刊行にあたっては所蔵者である疋田種信氏には筆舌に尽くし難いお世話を賜わりました。また、三年前にご逝去された疋田志津さまの慈愛溢れる御支援も忘れる事ができません。志津さま亡き後は、御長男の疋田芳寛氏御夫妻にもお世話になりました。町史の編纂段階から数えればかれこれ三十年来のお世話を戴いた事になりますが、常民文化研究所のプロジェクトになってからだけでも十年間にわたってお世話になりました。この間、毎年夏休みに五～六日の調査に入りました。また年によってはさらに春休みに二～三日入ったこともありま

した。私たちが疋田家にお世話になった日数は延べ日数にしますと恐らく八〇日にものぼるものと思われます。

第二に、こうした「悉皆調査」が可能となる為には、膨大な人員・調査補助者と資金が必要になります。幸い、人員の面では一九九三年に日本常民文化研究所を母体に神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科が開設され、多くの大学院生がいわば文書調査の実習の場として参加してくれるようになりました。また、資金の面では一九九八年～二〇〇一年の四年間にわたり文部科学省の科学研究費補助金（研究代表者中島三千男、「山城国大山崎荘の総合的研究」）を得、続いて二〇〇二年から二〇〇四年の三年間にわたり日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金（研究代表者中島三千男、「山城国大山崎荘の総合的研究」）を得ることが出来ました。また、後者にあたっては、神奈川大学からも少なからぬ御支援をいただきました。

こうした、多くの方々・機関のご支援を得て、日本常民文化研究所の大山崎プロジェクトの調査・研究活動が可能であったのです。今回、その成果の一部として『疋田家文書目録』を刊行する運びになりましたが、この目録の刊行が今後の大山崎地域の総合的研究の大きな一助となる事を期待しております。

なお、二〇〇五年度は大山崎調査プロジェクトの成果の一部として、この『疋田家文書目録』の他に『観音寺文書目録』も同時に刊行いたします。

最後になりましたが、多忙な時間を割いて、本目録の監修に当たられた神奈川大学教授・日本常民文化研究所所員田上繁氏に厚く御礼申し上げます。

二〇〇五年三月三十一日